

# 「総合計画(愛称:ながくて未来図)基本構想」ながくて未来の物語をつくっています!

☎ 経営企画課 ☎ 56-0600 (記事ID 10929) 📍 スマイルポイント対象事業

長久手市では、現在、今後のまちづくりの指針となる「総合計画(愛称:ながくて未来図)」の策定を進めています。現在、10年後の長久手市の理想の姿となる「基本構想」という部分を「ながくて未来の物語」として物語調にまとめているところです。また、あわせて、まち全体の将来像も検討しています。また、途中段階ですが、ぜひご覧ください。

基本構想については、1月以降も引き続き検討していきます。また、理想の姿を実現するために「何をすべきか?」も、みなさんと考えていきたいので、ぜひご参加ください!

## 【基本構想づくりの経過】

### 1 『みんなの想い集』の作成 (平成29年10月)

ながくて未来図づくりでこれまでいただいた延べ3,474人の意見を整理し、  
■大切にしたい5つのモノ  
笑顔/あいさつ/役割/つながり/愛着  
■今後のまちづくりで重要となる6つのカテゴリー  
人づくり/子ども/自然環境/生活/交流/都市整備  
を導きました。

### 2 第1回テーマ別検討会議 (平成29年10月21日)

『みんなの想い集』で導いた6つのカテゴリーごとに「理想の未来のシーン」を考えました。



### 3 第2回テーマ別検討会議 (平成29年11月3日)

カテゴリーごとの「理想の未来のシーン」をもとに、「未来の物語」を描きました。また、まち全体の将来像の要素出しを行いました。



### 4 第3回テーマ別検討会議 (平成29年11月26日)

描いた「未来の物語」に足りない視点などを話し合いました。また、まち全体の将来像の検討を行いました。



※テーマ別検討会議の合間に、有志市民と職員による「作戦会議」を開催し、そこでも議論しています。

## 【まち全体の将来像の検討状況】 まだ途中段階です

将来像については、「長久手らしいオリジナリティがほしい」「シンプルなものがいい」「こんな将来像を掲げるまちに住めて誇らしい!と感じられるものがいい」「言葉足らず感がある方がいい」などの議論を市民のみなさんと行い、その結果、現段階でいくつか候補ができました。

### ■きづき、きずく。

まちの資源や課題に「気付く」、これからさらにまちや人と人との関係性を「築く」という意味が込められています。

### ■一歩前へ、二歩未来へ。

2050年という「未来」を見据えて、まずはそのための「一歩」を踏み出そうという意味が込められています。

### ■けもの道をいく。

人口減少・少子高齢化という難しい時代に、市民主体というこれまた難しい手段で進んでいこうという意味が込められています。

### ■手と手で創造 活緑のまち 長久手

手をとって、まちの宝である「緑」をさらに活かしていこうという意味が込められています。

### ■育む“わ”～笑・和・輪・羽・話～

5つの“わ”を育んでいこうという意味が込められています。笑⇒笑顔、和⇒平和、輪⇒つながり、羽⇒羽ばたく、話⇒対話

### ■冒険の主演はぼくら ながくて未来図

総合計画の愛称「ながくて未来図」になぞらえて、この計画を進めていく当事者は「ぼくらみんなだ!」という意味が込められています。

## 【ながくて未来の物語(=基本構想)】

まだ途中段階です

～カテゴリーごとの10年後の理想の姿を物語にしてみました～

### 人づくり

#### 「やってみよう」でつながるまち

##### 《物語のあらすじ》

2028年の長久手市が、誰かの「やってみよう」という想いを軸に「学びの循環」が起き、その学びで、人が育ち、さらに、その過程でつながりも生まれている、という理想のまちになっているという様子を、大学で長久手市に引っ越してきた大学生を主人公に、物語として描いています。

《イメージイラスト》



### 子ども

#### 子どもが感性豊かに生きられるまち

##### 《物語のあらすじ》

2028年の長久手市が、「まち全体で子育てをしている」ようなあたたかい雰囲気があるおかげで、子ども達は、ありのままのびのびと感性豊かに生きられ、そして親もいきいきと暮らせる理想のまちになっているという様子を、結婚を機に隣町から長久手市に引っ越してきた3人の子どもを持つお母さんを主人公に、物語として描いています。

《イメージイラスト》



### 自然環境

#### みんなでみらいへつなぐ みどりはまちの宝物

##### 《物語のあらすじ》

2028年の長久手市が、昔からある自然を「まちの宝物」として大切に、またその宝物を次世代につないでいく意識が育っているという様子を、産まれてから40年間ずっと長久手に住む男性を主人公に、物語として描いています。

《イメージイラスト》



### 生活

#### みんながつながり、 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち

##### 《物語のあらすじ》

2028年の長久手市が、生活する上での困りごとを、家族、地域、行政とで、役割分担しながら解決し、誰もがいきいきと安心して暮らせるまちになっているという様子を、定年退職してから「地域デビュー」した高齢の男性を主人公に、物語として描いています。

《イメージイラスト》

